令和５年度

科学と人間生活

11　新潟翠江高等学校通信制

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
選択必履修	2	6	8	2

教　科　書	学習書・副教材等
科学と人間生活（東京書籍）	学習書：科学と人間生活（ＮＨＫ出版）

学　習　目　標

自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験などを行うことを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

学　習　内　容

１編　生命の科学（第１・２回レポート）
２編　物質の科学（第３回レポート）
　　前期試験範囲

４編　宇宙や地球の科学（第４回レポート）
３編　光や熱の科学（第５・６回レポート）
　　後期試験範囲

学　習　方　法

・レポート
　教科書に沿って学習し，内容を理解することができるように，レポートの問題は基礎，基本的なものが中心となっています。
・授業
　授業では，レポートの内容にかかわる重要な法則や概念などの説明をしたり，例題の解説等をします。各回のレポートに対する授業の回数が少ない（１～２回程度）ため，かなりポイントを絞った説明となります。
・校外授業と放送視聴
　学校での授業のほかに，校外の理科・科学関係の施設見学をしたり，ＮＨＫＥテレの「高校講座　科学と人間生活」を視聴してレポートを書くことで，授業への出席に代えることができます。上手に活用して，必要な出席時数（８時間以上）を満たすようにしてください。
・試験
　試験にはレポートの学習内容を確認する問題を出します。改めて教科書を調べ直す必要はありませんが，レポートの内容や計算方法等を理解してきてください。レポートの解答を暗記するだけでは試験問題は解けません。

評　価　規　準　と　評　価　方　法

レポートの評価，授業の出席状況，試験の成績などを総合して評価します。おおよそのめやすとしては，６回のレポートすべてが合格し，授業に最低８時間出席し，２回の試験の平均点が３０点以上ならば，単位が認定されます。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象を人間生活と関連付けて，問題を見いだし，見通しをもって観察，実験から得られた結果を科学的に考察し，表現するなど，科学的に探究している。	自然に関する事物･現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

担　当　者　よ　り　一　言

この科目では、身近にある自然の事物・現象や科学技術について学習します。レポートや授業でわからないところは、遠慮せずに質問してください。